編集後記

今年の桜は3月に咲き，4月には散ってしまいました。今年の春ほど地球温暖化を肌で感じた事は今までになかったことです。Flow Injection Analysis による CO_2 の定量が国内でも研究されておりますが，この分析法が普及し CO_2 モニターとして活用されることを期待します。昨年8月に早稲田大学および国際オリンピック記念青少年センターで ICAS 2001，Asianalysis 6 が同時開催され，FIA Symposium の様子は Vol. 18, No. 2 に報告されました。そのあと 12 月には 11th ICFIA が Chiang Mai で開催され，日本から多くの参加や論文発表があり，Organizer of ICFIA, Professor Gary Christian, Conference chair, Professor Kate Grudpan から JAFIA による contribution に謝辞が述べられましたが，その様子を小俣雅嗣先生（北見工大）に報告してもらいました。また Foreword は FIA の創始者の一人である Professor E. H. Hansen と第 42 回 FIA 講演会主催の佐藤生男先生（神奈川工科大）にお願いしました。学会情報は田中秀治先生（徳島大），Bibliography は受田浩之先生（高知大）に引き継がれました。これらのカラムを長年担当して頂きました大島光子先生（岡山大）ならびに手嶋紀雄先生（愛知工大）に謝意を申し上げます。

読者の皆様は今月号を手にされ JFIA の原著論文が全て英文であることに驚かれていると思います。最近殊にブラジル，アルゼンチン，スペイン，東欧からの投稿が増えております。Flow Analysis に関する学術誌は世界で JFIA のみであり，その機能が国際的に認められつつあることを裏付けていると考えます。この現象は国内の和文論文誌が苦戦しているのと同じ傾向にありますが，JAFIA の会員の皆様には和英混載誌であることの特徴を生かし，学術・技術が会員の皆様に還元できる紙面にしたいと考えております。ご意見・ご希望・ご提案がありましたら編集委員会へお知らせください。

JFIA への英語論文の投稿が増えていることから，International Advisory Board を新設しました。国際的に著名な先生方に依頼しましたところ，全員から「喜んで受理する」との返答を頂きました。それにあわせて役員名は表紙裏に英語表示，裏表紙裏に日本語による表示へ変更しました。

編集事務局からのお願いですが，電子投稿が増えてきております。論文審査の迅速化を図るため審査意見をメールで頂くように変更していきたいと考えておりますので，審査依頼がありましたらよろしくお願いします。

JFIA　編集委員長

酒井　忠雄